

令和 2 年度新任図書館長研修
質 疑 応 答 書

科目名：浦安市立中央図書館の再構築について

講師名：加藤 竜治

質 問

スライド 39

電子書籍の導入について、それぞれの内容、課題など、より詳細なご説明をいただければ有難く存じます。

全体

視察先で、特に参考になった事例などご教示いただけますよう、お願いいたします。

回 答（スライド 39 電子書籍の導入について）

浦安市における「電子資料提供サービス事業」は、平成 25 年 3 月に策定された第 2 次実施計画（改訂版）において、計画事業として採択されました。平成 26 年 3 月には、この計画に基づいて庁内に電子資料導入検討委員会を設置し、電子資料の提供に関する様々な検討を行い、第 1 段階を浦安震災アーカイブの構築、第 2 段階を地域・行政資料のデジタル化、第 3 段階を一般の電子書籍の導入とする方向性が決められました。

1 第 1 段階：「浦安震災アーカイブ」の構築・充実について

浦安市では、東日本大震災における液状化被害に関する情報を公開し、復旧・復興の記録を後世に継承して防災対応能力の向上を目指すため、国の補助金交付事業を活用して「震災資料アーカイブ化事業」に取り組み、平成 27 年 7 月に「浦安震災アーカイブ」を公開しました。

これまで「浦安震災アーカイブ」を維持・管理するとともに、新たに発見された庁内の震災・復興関連資料のアーカイブ化作業にこれまで取り組んできましたが、今後もコンテンツの充実と PR に重点的に取り組んでいきます。一方で、令和 2 年度当初予算計上に際し、「浦安震災アーカイブ」の移譲先を検討することが示されており、今後、アーカイブ OS のサポート切れとなる令和 6 年度までに移譲先を検討するという課題があります。

2 第 2 段階：地域・行政資料のデジタル化について

令和元年度から令和 2 年度にかけて、図書館所蔵の地域・行政資料のうち、電子化すべきタイトルの選定を行っています。電子化対象となる資料は約 1,000 タイトルを見込んでおり、令和 3 年度以降、令和 7 年度にかけて委託業者との契約により毎年 200 タイトルを電子化する計画で、デジタル化した資料は、原則として翌年度から順次公開を開始していきます。令和 8 年度以降は、新たに刊行される地域・行政資料をデジタル化の対象とし、自前で作業を行う予定です。

3 第3段階：一般の電子書籍の導入について

令和8年度の図書館システムリプレイスに際し、電子書籍提供サービスのシステムを新規に導入し、年間2,000タイトル程度の電子書籍を提供したいと考えています。電子書籍システムを単独で導入すると、経費が安くなる半面、紙資料との同時検索ができないなどユーザー側の利便性が低くなることから、リプレイスのタイミングで図書館システムと連携した形で導入する計画です。

なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、市の財政が厳しくなっていることから、上記の計画をそのまま進めることは難しい状況となっています。

回 答（視察先について）

平成25年から29年度までに、改修・建て直しをした図書館を6館（千代田区立日比谷図書文化館、港区立麻布図書館、茨城県立図書館、文京区立真砂図書館、海老名市立中央図書館、千葉大学アカデミックリンクセンター）、移転・新設した図書館を7館（葛飾区立中央図書館、飯能市立図書館、府中市立中央図書館、北区立中央図書館、江東区立豊洲図書館、武蔵野プレイス、船橋市西図書館）視察しました。

海老名市立中央図書館は、青少年センター・プラネタリウムを含む複合施設を図書館へ大規模改修しており、見せることを意識した空間構成や明確なコンセプトを打ち出した提案型の運営が参考になりました。

武蔵野市の武蔵野プレイスについては、市民の交流を促す施設として運営している点がリニューアル後の図書館の方向性を考える上で参考になりました。

千葉大学アカデミックリンクセンターについては、多くの大学図書館で導入されているラーニングコモンズを見学し、多様な学びに対応した空間構成や使用している家具が参考になりました。